

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとして事業所の役割を考え、入居者の地域生活を支える理念・方針・目標を明確にしたサービスの提供を出来るような独自の理念をつくりあげている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホーム長、管理者は、日常的にミーティングの中で理念を取り上げ具体化を図っている。理念の共有化の組織体制はできており、職員一人一人も理念の縮小版を持ち歩き、常に心掛けている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には入居時、口頭による説明をし書面をお渡ししている。 また、毎月「ホームドラマふれあい」を発行してご家族や地域の方々に配布し、理解していただけるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日々の散歩や買い物時に挨拶をかわしている。ホームで催し物がある時は声を掛け参加していただいている。 また、雑巾をご寄付くださったたり、自分の畑で取れた野菜をお裾分けくださったりと日常のお付き合いが出来ている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭り、運動会に積極的に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 近所の幼稚園との交流もあり遊びに来てくださる。 また、地域の小学生との交流もあり、ボランティアで雪あかり作りに来てくださり、その後も学校帰りに遊びに来てくださる。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>毎月「ホームドラマふれあい」を発行し、認知症を理解していただく為の『認知症Q&A』を掲載し近所の方に配布している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員に記入してもらい、評価の意義を理解し実施できるように会議で話し合いをしている。また、評価の結果により改善計画を作成し質向上に取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの行事に合わせて開催し、多数のご家族に出席して頂けるように工夫している。また、それ以外のときも必要に応じてその都度、話し合いの場を持っている。要望や意見に速やかに対応できるようサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所のサービス質向上に向けた諸課題解決に市担当者と共同関係を築いている。市担当者の紹介を受けた他事業者の相談に応じるなど、市担当者と事業所の信頼関係が出来ている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加し学んでいる。個々の必要性を管理者と話し合い、成年後見制度を利用されている方がいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注を払い、防止に努めている。	日々スタッフ同士で注意を払い、毎月のミーティングで虐待がないか確認している。ホーム内で身体拘束防止委員会を設置し防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に本人とご家族と面談し、よく話し合いらい、納得して頂き契約に至っている。また、解約の際にも十分な話し合いの結果解約に至っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃より何でも話して頂けるような雰囲気づくりを心がけ言葉で言い表せない事もくみ取れるように努めている。毎月のミーティングで話し合い日々のケアに努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の請求書送付時に入居者の日々の暮らしぶりや健康状態についてお手紙で知らせている。金銭管理については、来訪時に出納帳を確認して頂いたり、毎月の請求書送付時に出納帳のコピーを送っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会にて、意見・要望・苦情などを聴き、日頃より何でも言って頂ける雰囲気が出来ており、即時改善に努め、運営に反映している。玄関にご意見箱を設置し、いつでも意見を言えるようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回、ふれあい～朝里・ふれあい小樽稲穂合同の責任者会議を行い、運営者に意見・要望を言える機会を持ち、運営に反映していただけるよう働きかけてる。	○	年に一度でもいいので経営者が全職員の意見・要望を聴く機会を持って頂きたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の健康状態や状況に合わせて柔軟な勤務体制をとっている。緊急時には、ホーム長・フロア長が駆けつけることが出来るようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職の際はダメージを最小限に抑えるように努めている。	○	異動によって職員の離職発生という事態もあるので慎重に検討して頂きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修に参加する機会を多く持ち、参加した職員は他の職員に伝え日々のケアに活かしている。介護福祉士国家試験にも毎年挑戦している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>「小樽グループホーム連絡会」に加入し、研修には積極的に参加し、実践的な交流・連携を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>新年会・忘年会・慰安旅行・その他フロア毎の職員交流にも金銭的な援助をして日々のストレス軽減に取り組んでいる。</p>	<p>○ 慰安旅行は毎年実施して頂きたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格所得に向けた休暇取得の支援がある。本人の意向に副えるよう職場内で労働環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居について相談があるとまず本人に会い、不安なことや思いをよく聴き、受け止めるようにしている。</p>	<p>○ 入居前に何度か面談し顔なじみになる機会を持っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居について相談があると、家族と面談しどのような心配・悩みがあるのかよく聴き、受けとめている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族のお話をよく聴いてホームの入居が適切かどうか見極め、場合によっては他のサービス利用の提案も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームを見学して頂き、一緒に食事をしたりレクリエーションに参加して頂いたりしながら雰囲気を感じて頂き、馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	掃除や調理等を一緒に行い、味付けなどのアドバイスをして頂いたり、ちょっとした生活の知恵を教えて頂いたり、時には家族のように相談にのって頂いたりしながら支えあいの関係を築いている。 ともに笑ったり泣いたり喜怒哀楽をともにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	お手紙や電話で連絡したり、いつでも来訪していただける雰囲気づくりを心掛け、来訪時には職員とゆっくりお話しして行かれる関係になっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	いつでも来訪していただける雰囲気づくりに努め、行事の時には必ず家族にもお誘いの連絡をして、家族との関係が継続できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している美容室・理容室や教会などに家族にも支援して頂き通っている。また、友人・知人の方々にも気軽に来訪していただけるような雰囲気づくりをして支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事時の席の配慮をしている。 また、日々の会話には職員が潤滑油になり多くの会話を持てるように努めている。 他の方が車椅子を押したり、お部屋に遊びに行かれお話しされたりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院でホームに戻ってこれないようになっても、職員は出来る限りお見舞いに行き励ましている。 ご家族とも関係が断ち切れないようにし、ご家族から電話や手紙を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の何気ない会話や行動から思いや意向・好みを把握するよう努めている。 ミーティング時に職員全員で情報を共有し検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族からの聞き取りにて把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常の行動や言動・しぐさ等から総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の心身の課題や、本人・家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。 3か月ごとにモニタリングを行い、入居者本位の介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとに介護計画の作成を基本にしている。体調変化などが生じた場合はその都度見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月24時間の様子を記録し、職員が常に情報を共有しミーティング時または必要に応じて話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院・理美容等は原則として家族対応であるが、家族の都合で自主的サービスとして柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員・ボランティアの訪問、音楽療法士と協力しながら支援している。警察・消防とも連絡を取り合い協力体制が出来ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の状況や希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。事業所以外のサービスとつながるように他のケアマネジャーとも交流がある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席してもらい、地域包括支援センターと共同関係が出来るようになってきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院の定期的な往診を受けている。緊急時の対応や健康相談が出来るよう支援している。本人・家族の希望で入居前からのかかりつけ医の受診を受けている方の受診内容は家族から必ず情報収集をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師に相談にのっていただいている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員とかかりつけ医の看護師とは気軽に連絡をとり相談できる体制をとっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時は、出来るだけ職員がお見舞いしている。早く退院できるよう、病院・家族と情報交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族から意向を聞き話し合いしている。かかりつけ医との話し合いをしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期により良く暮らせるように職員全員で話し合いをしている。	○	「できること・できないこと」の見極めが難しく職員のシフト編成をもっと具体的に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人や家族の意向で移り住む際、本人・家族・関係者で話し合い情報交換をしダメージを防ぐようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉掛けがないよう職員同士、日頃より注意している。 ミーティング時にも確認注意し合っている。 個人情報については守秘義務を徹底している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員が押し付けることなく、かかわり方や言葉掛けで本人が自分で決定できるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や気分を見極めながら、その人のペースに合わせた一日を過ごされるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	着る物などは本人の好みに合わせ選ばれている。 理美容は行きつけのお店に行けるよう支援している。 訪問理美容サービスも利用している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	音楽をかけ、会話を楽しみながら食事をし、後片付けなども能力や体調に配慮しながら職員と一緒にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望に添って健康に配慮しながら一人一人の状況に合わせて対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握し、トイレへの誘導、声掛けを実施し全員の排便状況のチェックを毎日し、気持ちよく排泄していただけるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ゆったりと入浴していただけるよう、一人対職員一人の対応で支援している。 入浴を拒否される時は無理強いはいしない。 異性介助を拒否される方には同性介助をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一日の生活にメリハリを付け、規則正しく生活していただき、夜は安眠できるよう支援している。 眠れない時は眠くなるまで会話をしている。 日中も体調や状況に応じて昼寝していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	野菜作りのお手伝い、花の水やり、縫い物、料理、後片付け等、一人一人の力に合わせた役割をしていただき、張りのある暮らしが出来るよう支援している。 ドライブや外食など気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の理解・協力を得て少額のお金を持たれている方もいる。 本人の希望で買い物をした時は職員と一緒に付き添い自身の財布から支払う事で満足と安心感を持ってもらえるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や体調を考慮しながら散歩やドライブ・外食など外出する機会を設け、季節の移り変わりを感じていただき生活に張りが出るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て家族旅行・外出などしている。 入居者・家族・職員で近場の温泉の一泊旅行に出掛けた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人・知人に電話したいとの希望には、その都度職員が対応し、心おきなくお話していただけるよう支援している。 手紙も自由に書き、職員が代筆や投函を頼まれたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来て頂けるようにしている。 居室でのんびりお話できる環境があり、ホームにはいつでも宿泊できる準備もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内には身体拘束防止委員会を設置しており、身体拘束について理解し日々のケアで職員同士でも注意しながら身体拘束をしないケアを実施し、毎月のミーティングでも確認し合っている。 身体拘束の研修にも出席している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、居室や玄関には鍵をかけていない。 夜間は防犯のために玄関に鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者の行動を見守り、居場所についても把握して、職員同士で声を掛け合い安全に配慮している。 訪問時は必ず声かけノックしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	現在は危険がない為、一般家庭のようにしてあるが、入居者の状態に応じ洗濯など鍵をかけて仕舞う場所を用意したり、包丁は使用後手の届かない場所に保管したり危険を防いでいた。薬は手の届かない場所にしまっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットに記入し職員全員で検討し事故防止に取り組んでいる。 事故が起きた時は状況等を詳しく事故報告書に記入し、再発防止の話し合いをし毎日のケアに活かしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員による救命救急の研修会を開き、応急手当の訓練を行った。 夜間緊急時はマニュアルを作成し全職員に周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災を起こさない対策を優先し、喫煙場所の徹底などを行っている。 年一回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。 職員は市で行われる消防訓練に参加している。	○	近隣の「ラ・ナシカ」と協力体制をとり、お互いの避難場所としている。 共同での避難訓練を予定している。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者一人一人に起こり得るリスクに対して家族に説明をし、抑圧感のない暮らしが出来るよう話し合い支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝晩の血圧測定の実施、顔色などの観察、食事・水分の摂取量を把握し、異変に気付いたら少しでも気になるような事があれば、フロア日誌などで全職員が情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は医師からの説明や処方箋を確認したり、本などから情報を学んでいる。 服薬は一人一人の力量に合わせ支援し見守りしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自然に排便できるのが一番いいと考え、飲食物の工夫をしたり体操などに取り組んでいる。 排便チェックを毎日行い、下剤の調整に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の状態をみて、毎晩義歯洗浄・口腔ケアの声掛け介助を行っている。毎食後の支援はしていないが、その時々に応じた対応をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の希望を取り入れながら、栄養バランスを考え、食事も個々に合わせ提供している。一日の摂取カロリー・水分量に注意し対応している。協力病院の管理栄養士にアドバイスを受けている。	○	家族が持って来られる食品は管理が行き届かなく、生ものへの注意や悪影響などを再三説明し、なかなか聞き入れてもらえなかったが徐々に良くなり家族も少しずつ納得されている。今後もお互いが納得できるよう努力していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、いつでも見られるように目の付くところに張ってあり徹底している。職員はもちろんのこと、入居者にも食事の手洗い、外出後のうがい・手洗いを徹底し、家族や外部からの来訪者にもうがい・手洗いをしている。	○	実際に発症があり、対処が後手後手となってしまった。職員全員に徹底した周知が必要と感じた。季節の変わり目等、折にふれて研修をし迅速に対応できるようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は常に新鮮で安全なものを使用し心掛けている。まな板・包丁・布巾などの調理用品は常に消毒して衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に木のぬくもりのある看板を設置し、地域の方がいつでも来ていただけるような言葉掛けがしてある。玄関周りには花壇にお花を植えたり、プランターを置いたり、ベンチがあり明るい雰囲気を出し、出入りできるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの花や飾り物などを飾ったりしている。台所からは調理の音や香りがし、家庭的な雰囲気を作り出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにはテレビ・ソファがあり、玄関ホール・廊下奥に椅子があり、一人で過したり気の合った方とお話したり、思い思いに過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・家族と相談し使い慣れたタンス・ベッド・仏壇など持ってきており、家族の写真や小物などを飾り居心地良く過ごせるようになっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度計を設置し、一日3回チェックし状況に応じ入居者の様子を見ながら調整している。 冬は乾燥を防ぐ為、加湿器を設置し居室には濡らしたタオルを掛けている。 掃除の時など窓を開け、空気の入れ替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全館バリアフリーになっており、各所に手すりが付いている。 また、必要に応じて手すりの設置などを行っている。 見えずらい手すりには赤いテープでしるしを付け、安全に配慮している。 居室内の家具の配置にも危険がないよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人を把握し、どのような事が混乱や失敗につながっているのかを見極め、必要に応じて状況にあわせた環境整備に努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にベンチがあり、暖かい日にはベンチに座り外の景色を眺めたり、日向ぼっこを楽しんでいる。 建物の裏に野菜や花を育てている畑があり、ベンチが設置されており楽しみながら活動できるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

食事中、会話を楽しみながらゆっくりと食事を楽しんでいただいています。
スタッフ同士、日々気付いたことなどその都度意見をかわしながら、日々の実践に取り組んでいます。